

## 令和6年度 施設関係者評価

評価基準 (A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない)

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	施設関係者評価	施設関係者評価者から	改善策(来年度に向けて)
1 教育・保育目標	(1)心身ともに健康で元気に遊ぶ子ども	やりたいことに向かって心と体を十分に働かせているか	○園児は年間を通して園庭で遊んでいる。遊具や砂場で体を十分に動かしている。 ○幼児は、委託した講師の指導を受けて、体育・英語・絵画等を楽しんでいる。 ○保育者が見守る中、屋内外それぞれの環境の中で様々な体験を積み、自立的・意欲的に活動をしている。	A	A	○体育講師がよく考えて園庭を広く使う遊びを考えている。園児も楽しく遊んでいる様子が見えた。 ○保育者が複数の目で園児を見ることで、安全に遊んでいる。	○園児が遊ぶ場所の安全を確保するため、業者に依頼した点検や日々の点検を徹底する。 ○様々な行事を通じて地域やお年寄りとの交流を活発に行い、思いやりの気持ちを持てるようにする。
	(2)心豊かで思いやりのある子ども	様々な人と関わりを持ち、自分の思いや要求を言葉や態度で安心して表現しているか	○毎月1回の異年齢児交流により、他の歳児の園児との交流ができた。回数を重ねる毎に安心感が増している。 ○保育者は、園児との信頼関係を築くため、愛情をもって欲求や気持ちを受け止めている。 ○地域やお年寄りとの関わりが増え、会話や交流を楽しんでいる。	A	A	○保育者が複数目で園児を見ることで、安全に遊んでいる。 ○地域やお年寄りとの交流はこれからも継続して頂きたい。 ○行事を通じて1つ2つの事をやり遂げる達成感を得ていると感じる。専門の講師を活用することで、よりよい行事になっている。	
	(3)自分で考え行動する子ども	○身近な環境に主体的に関り、活動を楽しんでいるか ○あきらめずにやり遂げようとしているか ○自信をもって行動しているか	○保育の環境設定に日々工夫を凝らし、身近な環境に主体的にかかわることができるようにしている。 ○1つの事をやり遂げる達成感を味わうことが出来るように保育者が援助し、発表会や作品展等を通して自信を持つ機会を多くしている。	A	A		
2 安全管理・指導	事故防止・防災	○定期的に安全点検や避難訓練等の危機管理意識を持ち、全職員が安全対策をとれるよう努めているか ○出欠管理、人数確認の徹底がなされているか	○毎日の遊具点検、毎月の避難訓練、園内研修等により防犯・防災研修、交通安全指導等を行っている。また、園児には、紙芝居や絵本、素話を媒介として、年齢に応じた防災教育を行っている。 ○アレルギーの誤飲・誤食を避ける為、保育者と給食職員で連携をとり、アレルギーと普通食の区別がつきやすいようにおぼんの色を変える等の工夫をしている。 ○出欠管理システムで、出欠確認、人数確認を適切に行っている。また、連絡なく出席していない園児には、電話で確認をしている。 ○不適切な保育がないよう研修を行い、管理職の保育室への巡回を行っている。また、職員の事務作業の負担軽減のため業務の見直し、ICT化をした。休暇取得の促進等の働き方改革を行っている。	A	A	○事故防止・防災マニュアルも整備されている。職員への周知もできている。 ○アレルギー対応は、これからも事故なく対応して頂きたい。 ○園庭から園内に入る時などにも人数を確認している様子が見られた。決まっていることを確実に行事事故のないようにして頂きたい。 ○不適切な保育が発生することがないように、研修等できることを確実にして頂きたい。	○事故防止・防災マニュアルの見直しを定期的に行っていく。 ○出欠管理システムの導入により、登降園の把握がしやすくなった。慣れにより、人為的なミスがないように気を付けていく。
3 保健管理・指導	健康管理	○健康管理指導を行っているか ○園児への健康教育を行っているか	○看護師が、園内で流行している病気を把握し、その対策指導や保護者に対する情報提供を行っている。 ○園医による健康診断、看護師による与薬、視診検診検温を行っている。 ○園児には、絵本等を使い分かりやすく手洗いやうがい的重要性を伝えている。	A	A	○看護師が、ケガの手当や病気のとりまめや情報発信を対応している。 ○園児に対する健康教育を継続して行って頂きたい。	○これからも看護師によるケガの手当で、情報発信を継続していく。
4 特別保育	子育て支援センター	保護者が子育ての喜びを感じられるように支援できているか	○地域子育て支援拠点事業は、ウォーターサーバーを設置し、利便性の向上を図った。 ○母子の孤立が問題となる中、伴走型相談支援業務の戸別訪問事業等の拠点事業の重要性はさらに増していくので、引き続き子育て支援をしていく。 ○月に数回イベントを行い、子供の成長を実感し、他の保護者と共感できる場を設けている。	A	A	○子育て支援センターは、地域の子育て世帯が集まり、交流できる貴重な場所である。色々な取組を行い親子が来やすい環境を作りたい。 ○伴走型相談支援により、戸別訪問が増えたので職員の負担が増えた。そのケアが必要と感じた。	○支援センターを利用しやすいよう、情報発信や環境作りをしていく。 ○伴走型支援により、職員へ過剰な負担がかからないようにケアしていく。
5 組織運営	組織体制の充実	チーム保育を行い、情報を互いに共有し合い、子ども理解や保育の進め方について周知、連携しているか	○月1回の職員会議の他、毎日の昼礼や園内研修で情報共有や保育の統一を図った。また、各種研修結果を職員会議で発表することで、学んだことを共有している。	B	A	職員会議や昼礼等を通じ、情報共有ができていたと感じた。今後も職員間の連携を高めて頂きたい。	職員会議や昼礼での情報共有の他にも積極的に情報共有できる体制作りを推進する。
6 研修	研修体制の充実	内外の研修後、自分の保育に活かしているか	○サブスクの研修を取り入れることで、研修の機会を確実に確保することができた。 ○研修報告をすることで、受講した保育者が研修を振り返る機会となっている。	A	A	色々な形の研修を取り入れ、多くの職員が研修に参加できる環境ができている。	職員の体制を整え、研修を積極的に受講できるようにする。
7 教育・保育環境整備	教育・保育環境の充実	子どもの興味関心に寄り添いながら、自ら「やりたい」と主体的に活動できる環境を作っているか	○子どもの興味関心を把握すること、各園児の興味に沿った環境を作ることを努力していく必要がある。 ○本の種類や数を多く配置し、興味のある本をすぐ手に取れる環境づくりをした。本の更新や見直しをすることができた。また、遊具や玩具の手入れや整備を行った。	A	A	○図書室、各クラスに絵本がおかれており、絵本に触れ合う環境が整備されている。 ○子どもの興味はそれぞれ違うので、大変だと思う工夫して頂きたい。	子どもが主体的に活動できる環境を提供していく。
8 家庭との連携・協力	家庭教育への支援機能の充実	遊びや生活の様子の情報発信を行い、子どもの成長の喜びを共有できる環境作りを努めているか	○園児の普段の生活を動画配信することで、子どもの成長の喜びをより分かりやすく、共有することができている。 ○SNSの発信を増やした。 ○保護者参加型の行事が増え、子供の成長の喜びを共有できた。 ○希望による保護者への個人面談は、引き続き丁寧に行った。	B	B	親との面談だけでなく、日々の普段の様子を分かりやすく伝えるために、SNSに力を入れる等、工夫している。	○これからも保護者との面談を積極的に行っていく。 ○家庭との連携・協力の重要性を再認識し、丁寧に対応する。
9 近隣の学校との連携	近隣の学校との連携の推進	近隣の学校との交流の場を作り、親しみを持って交流できる場や機会を持っているか	○8月の異年齢児交流で、近隣の小学生と交流の場を持つことができた。 ○近隣小学校の2校が、公開保育参観会へ参加して頂いた。 ○近隣小学校の公開授業に年長児クラスの保育教諭が参加した。小学校での生活の様子を確認したことで、小学校への接続を見通す生活を意識することができた。	A	A	○近隣の小学校との交流が活発になり、連携が推進されていることを確認した。	○近隣の小学校が、園の公開保育に毎年参加して頂いている。小学校の公開授業にも積極的に参加し、連携を強化していく。
10 地域との連携	信頼される園づくりの推進	地域の方との触れ合いの場を作り、親しみを持って交流できる場や機会を作っているか	○地域の方やお年寄り等と交流の機会を積極的に設けた。地域の方や園児の祖父母に行事を観覧して頂いたりすることができた。 ○地域のボランティアグループには、散歩、ミカン狩り、竹の子狩り等にご協力頂き交流することができた。	A	A	○地域のボランティアグループに大変お世話になっており、いい交流ができている。	○地域の方や祖父母が観覧できる行事を継続して行っていく。 ○地域のボランティアグループの協力で感謝し、いい関係を継続していく。